

第 31 回 都立つばさ総合高等学校 ISO 委員会（第 57 号）

つばさ総合高校は 2003 年 3 月に ISO14001 の認証を取得、以来さまざまな環境活動を行っています。活動は ISO 推進委員会で計画され、生徒の ISO 委員会が主に実行します。もちろん、学校全体での取り組みのため教員も活動の主体です。

様々な活動がありますが、今回は「ごみ削減の活動」について説明いたします。

どこの学校でも「ごみ削減」は環境活動に一環として行われていると思います。本校の特徴はごみの削減をシステム的に処理していることです。まずごみの捨て方ですが、本校の各教室にはごみ箱がありません。そのためにごみを捨てる時は各階に 2 か所設置してある「資源・ごみステーション」まで行かなくてはなりません。確かに不便です。しかし、そこまで行き分別して捨てることでごみ処理への意識ができると思っています。回収は毎日行います。それを倉庫に保管して毎週木曜日に ISO 委員会生徒と担当教員で再分別（改めて袋を開き、ごみと資源に分別します）を行います。それをリサイクル業者とごみの回収業者に渡します。リサイクル業者が回収する「資源」とごみ業者が回収する「ごみ」の種類通りに「資源・ごみステーション」を 9 分別してあります。捨てる際に、きっちり分別することで「ごみ」が減り、「リサイクル資源」が増えるシステムです。さらに、再分別の最後に「ごみ」の計量を行います。これをデータとしています。ごみを減らそうという活動は多くあるかと思いますが、計量しなければその効果が分かりません。システム的といいましたが、当然のことを実際に積み重ねているだけと考えています。

さて、一昨年度より「ごみの 28 分別実験」を行っています。これは、活動前に比較してごみ排出量は約 85% 削減していますが、それ以上は削減できていません。ISO 委員会でもいつの間にか「これ以上減らせない」という雰囲気でした。それが本当か確認するための実験です。そのために「ごみ・資源」に限らず、捨てられたものを 28 に分別してみる実験です。

その結果次のことがわかりました。「このシステムではおそらくごみをこれ以上削減できない」、「考えた以上に資源として排出している量（重さ）が大きい」というものです。そこで ISO 委員会では捨てているものの中で最も重かったペットボトル容器の排出削減にチャレンジしています。しかし、この取り組みは苦戦しています。今までは単にリサイクルするもの増やす活動でした。しかし、ペットボトル容器を削減することは、結局「ペットボトルを買わない」ことを推し進める活動です。現在 ISO 委員会ではキャンペーンを計画し「マイボトル」運動を行う予定ですが、その効果をどのように確認するかなど難しい点があり少し時間が必要です。現在はその活動の基礎データを作るために、捨てられているペットボトルの本数を毎週数えています。

本校の今後の活動に期待していただけると幸いです。